

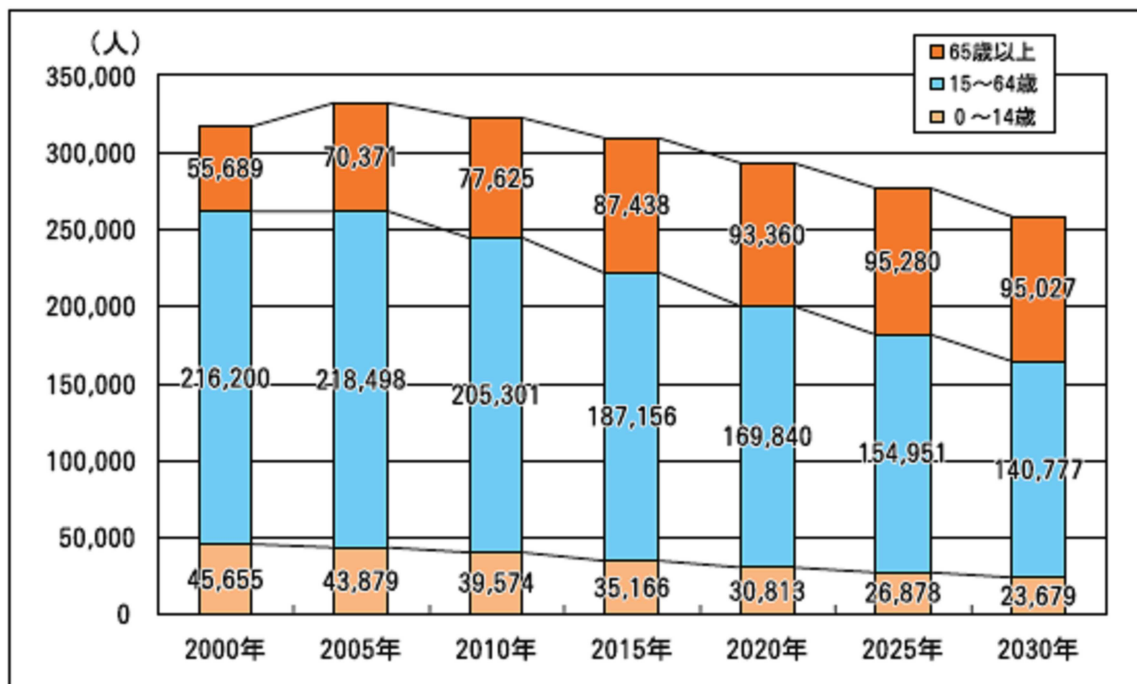
## 本市エイジフレンドリーシティの取組および 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画について

### 1 秋田市の高齢化の現状と推移予測

本市人口は、2010年（平成22年）に323,600人であったが、2030年（平成42年）には2010年より約64,000人減少し、259,483人になる見込みである。

今後は、総人口が減少を続け、年少人口・生産年齢人口が減少するが、高齢者人口は増加を続け、2030年には95,027人と人口の36.6%になる見込みとなっている。

① 秋田市の年齢3区分別人口の推移



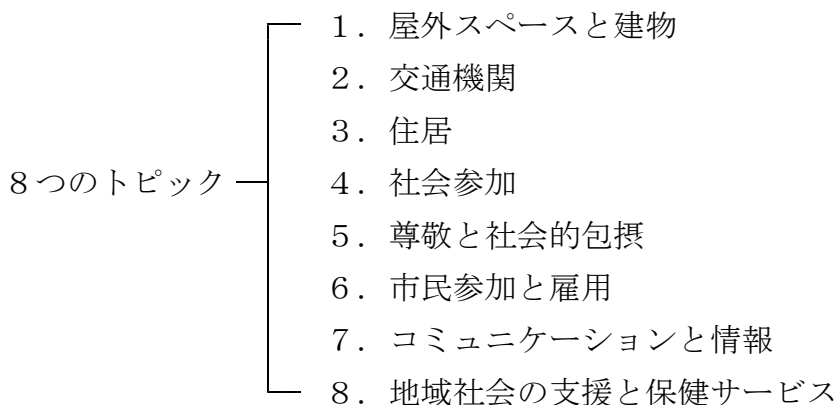
年次	年齢3区分別人口・割合						総人口(人)
	0~14歳		15~64歳		65歳以上		
2000年	45,655	14.4%	216,200	68.1%	55,689	17.5%	317,625
2005年	43,879	13.2%	218,498	65.6%	70,371	21.1%	333,109
2010年	39,574	12.2%	205,301	63.4%	77,625	24.0%	323,600
2015年	35,166	11.4%	187,156	60.4%	87,438	28.2%	309,760
2020年	30,813	10.5%	169,840	57.8%	93,360	31.8%	294,013
2025年	26,878	9.7%	154,951	55.9%	95,280	34.4%	277,109
2030年	23,679	9.1%	140,777	54.3%	95,027	36.6%	259,483

秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画より抜粋

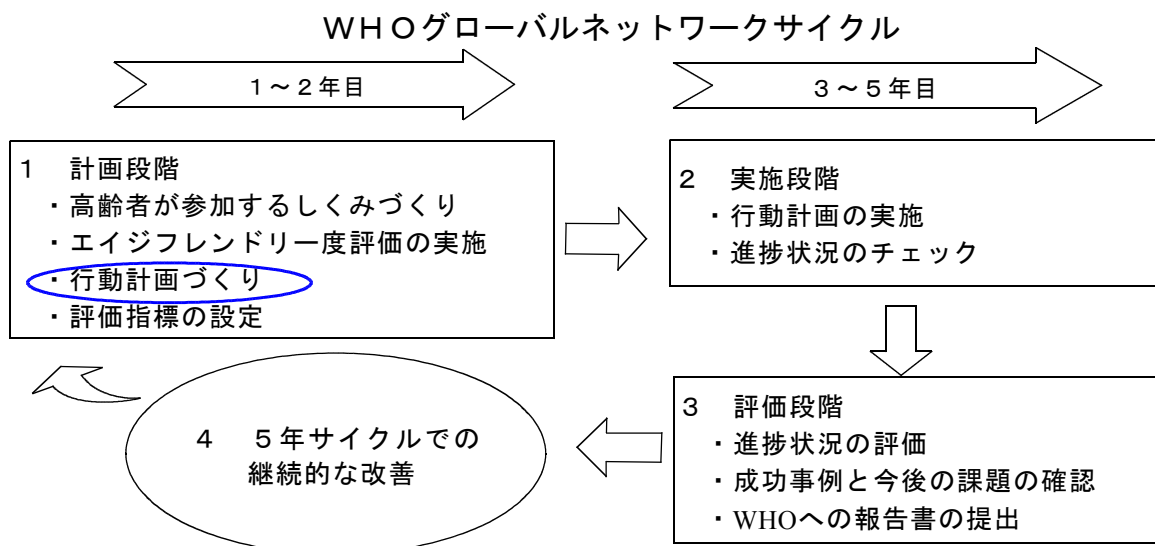
## 2 エイジフレンドリーシティとグローバルネットワークについて

エイジフレンドリーシティとは、世界的高齢化・都市化・都市の高齢化に対応するため、世界保健機関（WHO）によって提唱されたプロジェクトで、「高齢者にやさしい都市」という意味である。

同プロジェクトは、世界22か国33都市で実施した、高齢者に関する聞き取り調査結果から、高齢者にやさしい都市を実現するために検証が必要なトピックを8つにまとめた。さらに8つのトピックに関する「高齢者にやさしい都市に不可欠な特徴のチェックリスト」を作成し、各都市が自己診断するためのツールとして示した。



WHOは、エイジフレンドリーシティを推進する都市への支援や都市同士の連携を図ることを目的に、2010年、エイジフレンドリーシティグローバルネットワークを設立した。



秋田市は、超高齢社会を見据えた対応として、平成21年度から「エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）の実現」を目指し取り組んでいる。平成23年12月、日本国内で初めてWHOグローバルネットワークに参加、平成25年8月には、秋

田市エイジフレンドリーシティ行動計画を策定した（同年12月冊子完成）。

### 3 これまでのおもな取組と今後の取組予定

#### (1) これまでの主な取組

H21年度(2009年)	・ 庁内関係課所室職員による庁内勉強会の開催
H22年度(2010年)	・ 秋田市エイジフレンドリーシティ構想推進協議会の設置
H23年度(2011年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構想推進協議会が「秋田市エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）構想に関する提言書」を秋田市長に手交</li> <li>「提言書で示された市が重点的に取り組むべき課題」 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 高齢者や高齢社会に関するマイナスイメージの払拭とプラスイメージの創出</li> <li>■ バリアフリー化の推進</li> <li>■ 交通手段の確保</li> <li>■ 高齢者の孤立防止</li> </ul> </li> <li>・ 秋田市エイジフレンドリーシティフォーラムを開催</li> <li>・ 国際高齢者団体連盟（IFA）招聘事業を実施</li> <li>・ WHOエイジフレンドリーシティグローバルネットワーク参加</li> </ul>
H24年度(2012年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第11回IFA高齢化国際会議（開催国：チェコ共和国）に市長が出席、秋田市の取組を発表</li> <li>・ 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画策定委員会、庁内連絡会議、作業部会設置</li> <li>・ 国際高齢者団体連盟（IFA）招聘事業を実施</li> <li>・ 秋田市エイジフレンドリーシティフォーラムを開催</li> <li>・ エイジフレンドリーあきた市民の会（市民組織）設立</li> </ul>
H25年度(2013年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画を策定（8月）</li> <li>・ 国際高齢者団体連盟（IFA）招聘事業を実施</li> <li>・ 平成24年度補正「総務省ICT超高齢社会づくり推進事業」としてタブレットを活用した実証実験を実施</li> <li>・ 秋田市エイジフレンドリーシティフォーラムを開催</li> </ul>
H26年度(2014年)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ エイジフレンドリーシティカレッジリレーセミナー開催（2回実施）</li> <li>・ エイジフレンドリーシティカレッジワークショップ開催（1回実施）</li> </ul>

#### (2) 今後の取組予定

- ア 行動計画の進捗管理、エイジフレンドリー指標の開発
- イ エイジフレンドリーシティの普及啓発

- ・エイジフレンドリーシティカレッジの開催（リレーセミナー計3回、ワークショップ計5回予定）
- ・エイジフレンドリーシティニュースの発行（3回予定）
- ・出前講座の開催（後期開始予定）

#### ウ 高齢者の生活支援

- ・高齢者生活支援情報冊子の発行（12月発行、30,000部作成予定）

#### エ 民間企業との連携、支援

- ・エイジフレンドリーパートナー企業制度の開始

### 4 秋田市総合計画「県都『あきた』成長プラン」との関連について

平成23年度からスタートした秋田市総合計画「県都『あきた』成長プラン」では、「エイジフレンドリーシティ（高齢者にやさしい都市）の実現」を成長戦略のひとつに位置づけ、一体的かつ集中的に推進することとしている。

### 5 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画について

#### (1) 策定趣旨等

ア WHOグローバルネットワークは、参加都市に行動計画の策定を義務づけている。

イ 行動計画では、エイジフレンドリーシティを実現するための考え方や、取り組むべき基本的方向を示す。

ウ 「秋田市総合計画」のもと、「秋田市地域福祉計画」および「秋田市高齢者プラン」など各部門ごとの個別計画との整合を図る。

#### (2) 計画の概要

##### ア 基本理念

「高齢になっても地域社会で活動、活躍することができ、いきいきと過ごすことができる社会」

##### イ 計画期間

平成25年度から平成28年度までの4年間

##### ウ 特徴

(ア) 行政中心の行動計画と市民中心の行動計画の2部構成

(イ) 高齢者をはじめとする市民が計画、実施、検証のあらゆる段階において主体的に参加

#### (3) 計画の完成

行動計画は平成25年8月に策定（12月冊子完成）し、平成26年2月、WHOへ報告書（行動計画概要データ等）を提出した。

#### (4) 計画の推進について

行政中心の行動計画に係る各施策については、それぞれの担当部局において実施

されている。

市民中心の行動計画に係る各事業については、エイジフレンドリーあきた市民の会が中心となり実施されている。

\*各施策の平成25年度および26年度の進捗状況については、第2回推進委員会において報告する予定としている。

(5) 市民活動団体の組織化

秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画作業部会の参加者を母体に、平成25年3月26日に、「エイジフレンドリーあきた市民の会」が設立された。エイジフレンドリー精神の普及啓発や行動計画に定められた市民中心の計画の具体案の実施を、会の主な事業として活動している。